ホンネトーク

vol.105

JAグリーン近江管内の農家を取り上げ、ホンネのトークをご紹介。

「竜王黒大豆」のブランド力向上を目指して

蒲生郡竜王町 竜王黒大豆生産部会

竜王黒大豆生産部会の皆さん

日本一出荷が早い黒大豆

竜王町産の「竜王黒大豆」は、正月のお節用として人気が高く日本一早く出荷されることで知られています。竜王黒大豆生産部会では、昨年から、町のブランド戦略の一つとして売り出そうと取り組んでおり、黒大豆を象ったロゴを作ってのぼりを掲げるなどして発信し、需要に応えられるようにさらなる栽培面積の拡大に励んでいます。

丹波黒大豆の一大産地に

部会長の寺島健一さん(78)の話によると、竜王町で丹波黒大豆の栽培を始めたのは、昭和54年、山之上地区の2農家でした。1キロ1000円という高値に、栽培農家がどんどん増え、平成2年、生産拡大を目指して「竜王丹波黒大豆生産組合」を結成。町内全域で栽培するようになりました。平成5年には、販売金額が、一億円を突破しました。

平成6年の合併で「竜王丹波黒大豆生産部会」と名称を替えました。3年後には、200農家が、87・5㌶で栽培、147㌧も出荷販売しました。ところが、平成13年からの販売価格の連続低迷で、栽培農家、面積が減り続け、更に平成29、30年の台風被害で、栽培農家は、71農家、35㌶に落ち込みました。

高く積まれた黒大豆

生産農家は減少しましたが、近年、丹波黒大豆の全国的な需要が高まっており、同部会では、立て直しを図って面積拡大を呼びかけました。今年度には80農家が、52㌶で作付け、昨年に続く豊作でした。11月24日、同JA竜王営農振興センターでの販売先、高田種苗会社(本社大阪市)による出荷品質検査では、品質も良く、12月15日までに60㌧を出荷しました。

さらなる面積の拡大を目指して

「竜王町の肥沃な土地、そして、この地に10月から12月に吹き込む『比良八荒』の寒風が、黒大豆の生育に適しているようです。現在は、一般農家の作付けが多いですが、今後は認定農家と農業法人、若い後継者たちに引き継いでほしいです。丹波産に負けないような品質の良い『竜王黒大豆』を生産したいです」と寺島部会長は、力強く意気込みを話しました。

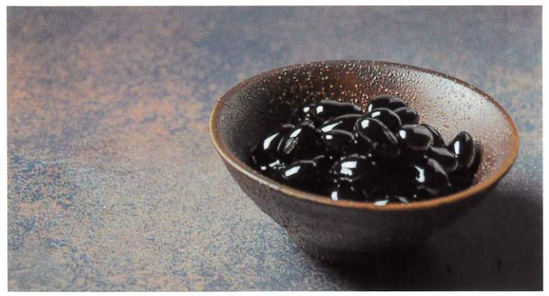
竜王ブランドをPR

竜王町では、同町で数多く作られている農畜産物を一つのブランドとして特産化していこうという思いを込めて、生産者、企業、関係組織、行政が一体となって、竜王町まるごと「スキヤキ」プロジェクトを平成28年から進めています。同プロジェクトに協賛した商品等に「RYUOH」の文字を囲むように鍋をモチーフにしたマークが付けられています。

昨年作成されたロゴ

竜王黒大豆生産部会でも、プロジェクトに協賛し、黒大豆栽培40周年の節目でもある令和3年からロゴも新調し、出荷する丹波黒大豆の名称を「竜王黒大豆」に変更しました。また、今年には「竜王黒大豆」の名称と合わせるために部会名を「竜王黒大豆生産部会」に変更しました。

高品質で日本一出荷の早い地域ということを売りに丹波黒大豆と言えば竜王町と言われるようにこれからもブランド力の向上に努めていきます。


煮豆として人気が高い

ズラリと並んだ竜王黒大豆

黒枝豆としても人気

粒がそろった黒大豆